

平成29年度
備前市外部評価報告書

平成30年4月
備前市行政評価市民委員会

1 行政評価市民委員会

(1) 委員会設置（運営）の目的

備前市まちづくり基本条例で要請されている外部評価を実施することにより、行政評価（内部評価）の客観性及び透明性を確保するとともに、施策や事業の必要性、成果等について検討や検証を行うことで、市民の視点に立った効率的かつ効果的な行政経営を推進する。

(2) 役割

次に掲げる事項について審査および検討を行い、これに係る意見または提案を市長に報告する。

- ① 市が実施した施策評価および事務事業評価の結果
- ② 市の行政評価システムの改善

(3) 構成委員（7人以内）

No.	氏名（ふりがな） 敬称略	区分	職業・所属等	備考
1	片山 鐵男（かたやま てつお）	市民公募	無職	
2	原田 正志（はらだ ただし）	市民公募	地区公民館長	
3	船橋 美可（ふなはし みよし）	市民公募	備前市観光協会	
4	朝倉 栄美（あさくら てるみ）	市民公募	備前市地域おこし協力隊	
5	大森 早百合（おおもり さゆり）	市民公募	個人事業主	
6	世羅 徹（せら とおる）	学識経験	有限責任監査法人トーマツ 公認会計士	委員長
7	佐藤洋一郎（さとう よういちろう）	学識経験	岡山県立大学 教授	

(4) 委員会活動経過

回	日時	具体的活動内容
第1回委員会	平成29年 9月22日（金） 14:00～15:30	○委員長（座長）選出 ○評価対象「施策」の選定（6施策）
第2回委員会	平成29年10月31日（火） 14:00～16:00	《施策1～2》 ・評価対象施策所管課との質疑応答 ・市民評価シート作成
第3回委員会	平成29年12月25日（月） 14:00～16:00	《施策3～4》 同上
第4回委員会	平成30年 1月 9日（火） 14:00～16:00	《施策5～6》 同上

場所：備前市役所 2階 南応接室

2 外部評価（委員会評価）の評価対象施策

評価対象とする施策については、テーマを絞らず、各委員が「評価したい施策」を選出することとして協議を行い、以下の6施策を選定した。

No.	コード	施策名	所管課	領域
①	03-04-11	コミュニティの育成と地域活動の推進	市民協働課	見直し
②	03-04-13	移住・定住の推進	地方創生推進課	検討
③	04-05-14	安全でおいしい水の安定供給	上下水道課	維持
④	05-08-35	公共交通の確保	公共交通課	強化
⑤	04-05-17	河川改修・砂防施設整備	まち整備課	強化
⑥	05-08-30	秩序ある土地利用と良好な市街地の形成	まち整備課	検討

※【領域の説明】施策の重要度と満足度を5段階（例—5:重要、4:やや重要、3:どちらともいえない、2:あまり重要でない、1:重要でない、0:わからない・意見なし）で評価していただきました。対象施策（42施策）の平均値を区分線として、縦軸（満足度）・横軸（重要度）で下記の4つの領域に区切ったものです。

「維持領域」 …重要度高い・満足度高い

→現状の方向を継続

「見直し領域」…重要度低い・満足度高い

→その施策や事業が必要か否かの検討が必要

「強化領域」 …重要度高い・満足度低い

→内容等を見直し、市民満足度を高める事業を行う

「検討領域」 …重要度低い、満足度低い

→その施策や事業の存続の検討が必要

《グラフにおける領域の説明》



3 評価結果

(1) 評価5項目の点数化

評価の視点を5項目（成果指標の妥当性、事務事業評価の適当性、施策の有効性、進行年度の取組内容、翌年度の取組目標）とし、それぞれの視点ごとに3点満点で評価した。

【委員7人の評価平均点】

回	第2回委員会		第3回委員会		第4回委員会		
日付	10/31（火）		12/25（月）		1/9（火）		
評価対象施策	動の推進	移住・定住の推進	安全でおいしい水の安定供給	公共交通の確保	河川改修・砂防施設整備	街地の形成	
評価の視点	コミュニティの育成と地域活					秩序ある土地利用と良好な市	
成果指標の妥当性	（平均点）	2.1	1.9	2.4	1.6	1.7	1.5
事務事業の適当性		2.0	1.6	2.1	1.3	1.7	1.7
施策の有効性		2.1	1.9	2.4	1.7	1.5	1.8
進行年度の取組内容		2.1	1.9	2.4	1.7	1.8	2.0
翌年度の取組目標		2.0	1.7	2.1	1.7	1.8	1.8
合計（合計点）		69.5	59.0	77.1	53.3	56.7	58.9

【点数における外部評価結果】

適正な評価						
概ね適正な評価			○			
一部不適正な評価	○	○		○	○	○
不適正な評価						

(2) 各施策の評価結果とその対応

※赤字は外部評価を受けての回答、対応

① 03-04-11 コミュニティの育成と地域活動の推進

	内部評価 ----- 外部評価後の回答・対応	外部評価（3点満点）
施策評価シート のわかりやすさ	/	<ul style="list-style-type: none"> ・文章は、わかりやすいものになっている。 ・H28年度の目標値の欄が、なぜ2ヶ所あるのか？ ・コミュニティの育成と地域活動の推進は市民意識調査では見直し領域にあり、市民に対して課題と取組内容が説明不足である。また、地域住民と地域課題を見つめ直し、地域、協力隊、市の3者で地域課題を解決・継続していくことが目的であり、評価シートでは、具体的取組姿勢が感じられない。
成果指標の 妥当性	<p>【4 高い】</p> <p>指標の数値が高くなることにより、積極的にまちづくりに参画する意識が高まり、コミュニティ意識の醸成に繋がるため、成果指標として妥当である。地域おこし協力隊員については、今後は、任期終了後の本市への定着率を指標として加える必要がある。</p> <p>○協働事業補助金 → 補助率が高く、補助金額が高額となる「ふるさとづくり事業補助金」を申請する団体が多い。また、例年、同じ申請者(NPO等)となる場合が多い。(この補助金の存在を知らない人も多い。)申請者増につなげるためには、PR方法、補助金額の上限及び補助率の見直しが考えられます。パートナーシップ推進会議の中で協議していきます。(財政当局との相談も要)</p> <p>○協力隊員の定住のための取り組み → 起業支援補助金の交付、情報提供、市担当部署への取り次ぎ、その他各種相談を行っています。起業支援補助金の交付件数以外、数値化することは難しいと考えます。定着率は、次年度の評価で指標とする予定ですが、任期終了後、ある程度の年数を経過した後の定着率の調査も必要と考えます。</p> <p>○単なる数値目標となっていないか → 地域の活性化には、地域の各種事</p>	<p>【平均2.1点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて見直しできている。 ・評価が低いように思う。 ・協働推進事業などは目標に対し、27年、28年は目標4に対し実績4、係長が認識しているとおり毎年同じNPO法人や任意団体からの応募で事業が終わっている。市民協働課からもっと働きかけをしてはどうか。 ・施策の評価が4と高くなっているが指標の数値が高くなることにより、積極的にまちづくりに参画する意識が高まり、コミュニティ意識の醸成に繋がるため、成果指標として妥当である。とあるが当たり前のことが書かれているだけに思える。協力隊員が今後において、任務終了後の本市への定着するための対策や取組を指標化し、定着率を指標として加えるべきである。 ・ボランティア活動参加の市民割合で評価可能か？ ・単なる数値目標（実質を伴わない）になっていないか？ ・年間提案数の増加を量ってほしい。

	<p>業・行事等への多くの住民の参加が必須です。ボランティア活動への参加割合を指標とすることで、まちづくりへの参画意識がある程度計れると考えます。しかしながら、ボランティア活動の参加割合では範囲が広すぎるため、地域活動への参加割合と限定した方が適当かもしれません。次回の「市民意識調査」の調査項目選定時に検討します。</p>	
<p>事業構成の 適当性</p>	<p>【4 高い】 構成事務事業は、施策目的を達成するために適当なものであるが、成果指標の数値を挙げるためには、「ボランティア活動支援事業」において、ボランティア活動の推進と啓発を充実していく必要がある。</p> <hr/> <p>○評価「4」は高すぎるのでは？ → ボランティア活動支援事業が機能していない現状ではありますが、施策の目的を達成していく上で、事業構成自体は適当と考え「4」の評価としています。なお、ご提言にあるように協働推進事業、ボランティア活動支援事業を中心に他自治体の状況を研究し、市民にとって有効な事業となるよう検討していきます。</p>	<p>【平均2.0点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業内容は妥当と考える。 ・評価の手段等は、事務的に問題ないと思いますが、今後に生かされないことが多いと思います。評価シートでまとめたように動いてほしい。 ・施策評価の4は高すぎるのでは？ ボランティア・NPOの支援・育成があまりできていないのが現状との総合評価がある。また、まちづくり基本条例に基づき、市民、団体、企業がボランティア活動の推進できるよう、備前市パートナーシップ推進会議で検討していく。関係機関との連携をこれまで以上に強化していく。また、他市の状況を研究し、市民、団体等が活動しやすいメニューを考える必要がある内容が事業構成に網羅されていない。
<p>施策の有効性</p>	<p>【4 高い】 地域おこし協力隊については、平成28年度末現在で22名を導入し、地域課題等の解決に取り組んでいる。縁結び事業については、縁結びサポーターの活用及び婚活イベントの定期的な開催により、本事業における成婚者の市内在住を促進している。</p> <hr/> <p>○施策の目的が達成されているかどうか考えることが疎かになっていないか？ → 成果指標は、成果を数値化して進捗度合を図る「定量評価」です。また、総合計画の目標値とも一致させており、表された数値を検証することで施策に対して一定の評価をすることができると考えます。</p> <p>○評価の該当項目と評価結果が整合しないところがある → ご意見にあるように協働推進事業、ボランティア活動支援事業の有効性を鑑みると、「4」評価は過剰の評価と言えます。「3」評価に変更します。</p>	<p>【平均2.1点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来目標も見据えられている。 ・地域おこし協力隊、縁結び事業も市民に見えてこない。 ・数字の上がり下がり进行评估することが目的となっており、そもそも施策の目的が達成されているかどうかを考えることが疎かになっている。目標達成のための具体的行動が見えない。 ・評価の該当項目と評価結果が整合しないところがある。 <p>01：協働推進事業の有効性 05：ボランティア活動支援事業の有効性 07：コミュニティ施設管理運営事業の有効性</p>

<p>進行年度の取組内容</p>	<p>地域おこし協力隊は、H29.8月現在21名（H28年度末から3名退職、2名新規）を導入し、地域協力活動等に引き続き取り組んでいる。本年9月末に2名、来年2月末に1名の隊員が任期終了となるが、本市への定住に向けてサポートを行っていく。また、地域と行政が、力を合わせて持続可能な地域づくりを進めていくために、本年10月から各地域に地域担当職員を配置する。縁結び事業については、縁結びサポーターへのセミナーを開催し、スキルアップを図る。</p> <hr/> <p>○地域おこし協力隊が各地区で平準化していない → 自治会連絡協議会等で、現況報告、PRしていきます。</p> <p>○地域おこし協力隊と地域担当職員との連携、情報共有 → 地域担当職員は、地域と行政をつなぐパイプ役として、地域が主体的に立ち上げる「まちづくり会議」のサポート等を行っていきます。地域おこし協力隊員は、地域からの要請があれば、「まちづくり会議」のメンバーとして参加することになります。</p> <p>○協力隊員の定住のためのサポート → 起業支援補助金の交付、情報提供、市担当部署への取り次ぎ、その他各種相談を行っています。</p>	<p>【平均2.1点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認識している。 ・「地域おこし協力隊については、地域課題等の解決に取り組んでいる」とありますが地域によっては1人もいない地域もあり公平性に欠けていると思う。なぜ、その地域に取り入れるよう指導しないのか？また地区別の現在の人数を教えてください。 ・今後に期待したい。 ・抱える課題やニーズに対して、どのような手段を用いるか。10月から地域課題の解決に向け、市と地域をつなぐパイプ役として、地域担当職員を各地域に配置する。とあるが地域担当職員と協力隊の連携や情報共有は今後どのような対策・取組を考えているのか市民にわかりやすい評価シートにしてほしい。 ・地域おこし協力隊のサポートの具体的な内容は？ ・地域おこし協力隊員の採用時に現状の認識を説明し、それを理解していただいたうえで採用する。定住率を上げなければ効果が少ないと思います。
<p>翌年度の取組目標</p>	<p>地域おこし協力隊11名が、3年の任期を終えることから、その後の起業・定住について支援を行う。また、必要に応じて新規導入し、その他の隊員についても、その能力を十分に生かして活動できるように引き続き支援を行う。各地域の自主的な取り組みとしての「まちづくり会議」の立ち上げと運営を地域担当職員と共にサポートしていく。また、地域担当職員制度については、課題等を臨機応変に対応し、よりよい制度となるよう推進していく。</p> <hr/> <p>○地域担当職員と市の役割 → 地域担当職員は、地域と行政をつなぐパイプ役として、地域が主体的に立ち上げる「まちづくり会議」のサポート等を行っていきます。具体的には、まちづくり会議</p>	<p>【平均2.0点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方向性としてはよい。あとは実態がともなえばよい。 ・作成者の取組目標をしっかり頭に入れて動いてください。 ・施策の評価は、通り一遍の表現で、市民に対して説得力がない。ただの報告書にすぎない。協力隊は既に3年過ぎたのに運用チェックリスト及び指針等は作成中とある。また「まちづくり会議」の立ち上げと運営を地域担当職員とともにサポートしていくとあるが地域担当職員の役割と各担当部署との役割が市民に説明されていないためわかりにくい。 ・支援の具体的な内容は？ ・地域担当職員の方の具体的な活動を教えてください。

	<p>にアドバイザーとして参加し、助言及び市からの情報提供などを行います。また、会議の情報を市の担当部署に伝えるなど連絡調整を行います。担当部署は、その情報により地域と連絡を取り、課題解決に取り組みます。</p> <p>○現役の協力隊員への支援 → 仕事、生活面での相談。また、必要な情報提供を行います。月に一度は個別面談を行っています。また、担当職員は、なるべく協力隊員が活動している現場に出向くようにしています。なれない土地で知らない人ばかりの中で生活している協力隊員の精神的な支えとなれるよう努めます。</p> <p>○協力隊員の任期終了後の起業 → 起業の情報については、HP等で紹介します。</p>	<p>・地域おこし協力隊の起業が市民にあまり見えてこない。</p>
--	--	-----------------------------------

【上記以外の内部評価への指摘事項・提言】

- ・ 人員が少ない中で活動は大変だと思います。ただし、地域の活性化には最も大切な部門でありますのできめ細かい指導、援助をこれからもよろしくお願いします。
- ・ 地域のキーパーソンが高齢化しており、地域の活性化に寄与することが困難となっている状況があるが、この代りを地域担当職員が担えるものなのか？
- ・ 今年10月から「地域担当職員制度」が導入されるが、どのように住民ニーズに沿った地域づくりをしてくれるのか期待したい。
- ・ 地域おこし協力隊の副業に関する定義があればよいのでは？
- ・ 地域担当職員への陳情が多くなることを懸念される。説明会ではその辺を十分説明しておくべき。
- ・ 地域担当職員—地域おこし協力隊—市の意思疎通を密に行うべき。
- ・ 市の組織内で関係する部門との連携が重要（横串）

○地域担当職員が地域のキーパーソンとなりえるのか

→ 地域担当職員は、地域と行政をつなぐパイプ役として、また地域が主体的にまちづくりを行っていく上でのサポーターとして導入するものです。地域のキーパーソンとなりえる人物は、地域が育成していくものであり、地域担当職員がキーパーソンとなることはありません。

○地域担当職員の副業に関する定義

→ 市と地域担当職員は雇用関係を結んでいません。よって、任期中の起業、副業（ダブルワーク）は認めています。また、地域協力活動に影響を及ぼさない範囲での起業準備についても活動時間として認めています。（収益が発生する場合は、認められません。）定義は定めていませんが、現在、指針・マニュアルを作成中であり、その中に副業等に関する事項も盛り込んでいければと考えています。

② 03-04-13 移住・定住の推進

	内部評価	外部評価（3点満点）
施策評価シートのわかりやすさ		<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい ・⑦の目標の欄で、コメントが枠内に収まっていない。 ・市民意識調査による施策の重要度・満足度は検討領域、強化領域の臨界にあるが、市民にわかりやすい施策評価シートにするべき。
成果指標の妥当性	<p>【4 高い】</p> <p>定住施策としての最終的な目標は、魅力あるまちを作ることになりますが、即効性のある対処法の一つとして、若者世帯に向けた新築住宅や家賃補助が有効であることが数値として実証されているため。</p>	<p>【平均1.9点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住者、定住者（定義づけ必要）は指標として入れるべき。 ・目的・成果を設定するのに、他の方法が無いか検討してほしい。若年世帯定住支援事業に対する家賃補助することで、転出者の抑制と地域の活性化につなげていくことが移住・定住の促進。数字があるが判断できない。 ・「移住・定住促進」を「補助利用世帯数」で評価できるのか？ 移住、定住の個別評価は？
事業構成の妥当性	<p>【3 どちらともいえない】</p> <p>若者世帯に対する住居、子育て施策として有効と判断しているが、家賃補助は住居を新築するまでの暫定的な措置であり、手厚すぎるとも言える為、教育、住宅地供給などと併せて総合的な戦略が必要と思われる。</p>	<p>【平均1.6点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私も手厚い措置と思うので、今後の解決策に期待する。 ・強化するなら、補助増額や新しい事業を考えるべき。 ・目標を達成するための実施した事業内容において、事業が達成されたかどうかを考えることがおろそかになっていないか。 ・転出の理由にマッチした事業になっているのか？（01の有効性はAでは？） ・補助金ありきの事業は、検討の必要性があると思います。
施策の有効性	<p>【4 高い】</p> <p>申請状況からは今後も増加が期待できるが、本質的な対応（住宅地、教育、交通など）ができなければ、下降することも考えられる。</p>	<p>【平均1.9点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりだと思う。 ・指標分析、評価年度、中長期の達成見込みは、通り一遍の表現で、市民に対して説得力がない。ただの報告書に過ぎない。 ・記載されているとおりと思う。
進行年度の取組内容	<p>平成29年度の申請状況も旺盛であるので、今後も継続して取り組む必要がある。また、住宅支援施策の多くは、平成29年度までの時限要綱であるので、今後の課題も踏まえて見直す必要がある。</p>	<p>【平均1.9点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申請状況が旺盛。 ・課題認識はしているが、解決に向けての取組は施策評価シートでは市民にとってわかりにくい。

翌年度の取組目標	<p>成果を踏まえると継続実施が妥当と考えるが、内容については吟味を行い、住宅補助や子育て支援に傾注し過ぎていた嫌いもあるため、見直す必要がある。</p> <p>また、道路や上下水道などの社会資本整備、空き家対策などの住環境整備にも力を注ぎ、住み良さの基本部分を再構築する必要がある。</p>	<p>【平均1.7点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後に期待する。 ・ 市の方向性（目標値）はしっかりと定めるべき。 ・ 移住体験ツアーのアンケート内容報告書を見ると、各市町の行程はいかがでしたかについて、全体の60%以上の方が参考にならないと書いてある。50代～70代の64%の方が移住体験を利用したい。また、50%の方が田舎暮らしをしたい。定年後のスローライフを実現したい等の意見に対して対応と取組ができていない。
-----------------	--	--

【上記以外の内部評価への指摘事項・提言】

- ・ 若者世帯の家賃補助が手厚い措置なのであれば、10/25から制度が始まっている空家や、空き部屋を活用してはどうか？
- ・ 手厚い補助をしても、定住することを期待する。
- ・ どういう人が転入し転出しているのか気になる。
- ・ 課長の考えられたとおりで特に問題ないと思いますが、29年度、30年度にどう取組ができるか、どう行うか行動表が知りたい。
- ・ 移住・定住促進について、私が思うのは企業の誘致だと思う。他部門と調整をするような会議を聞き、取り組んで行ってほしい。
- ・ 具体的に行動を行ってほしい。
- ・ 転入者に対するアンケートは実施しているのか？
- ・ 家賃、建築費の補助の継続性は？
- ・ 新築補助のコスト手段の改善は可能なのか？
- ・ どの自治体もほぼ同じような施策であり、切り札となり得る特徴を持った自治体が少ない。当市の補助事業の増加をさせるという効果には、一過性に終わる可能性が大きく、長期的な効果は期待できないと思います。施策評価③の本質的な対応は雇用環境が悪いことではないでしょうか。備前市の企業数は、確かに多いが、実態は家内工業もしくはそれ以下の経営規模が大半であり、それで安心かつ安定した生活を送れる雇用が生まれるのか。移住・定住策は多くの複合的条件を抱えており、関係部門と十分な連携を期待します。
- ・ 総合的に実行するのは困難。今年度はコレといった進め方でなければ進まない。
- ・ 市民意識調査で重要度が低い。市が受け入れを拒んでいるようにも見える。

③04-05-14 安全でおいしい水の安定供給

	内部評価 ----- 外部評価後の回答・対応	外部評価（3点満点）
施策評価 シートの わかりや ずさ		<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい。 ・料金収納率が高いのはすばらしい。これからも頑張ってもらいたい。 ・全体的に専門用語が多く読みにくかった。 ・指標がどのように決まったのかなど、もっと情報がないと深く内容を見ることができない。良い取り組みができていのかどうか判断できない。 ・むづかしい。 ・専門用語が多く、添付資料があった方がよい。 <div style="text-align: center;"> </div> <p style="color: red;">添付資料等は、今後の課題としたい。</p>
成果指標 の妥当性	<p>【4 高い】</p> <p>有収率の向上は、無効水量を減少させることで達成でき、動力費等を低減させることで、効率的な運営が図れます。施設の耐震化を図ることは、安全で安定した水の供給に寄与します。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p style="color: red;"> ・誰にシートを見てもらいたいかを意識して作成するというのは大切なことだと思います。 ・有収率については、水道管の延長が413 km以上で耐用年数を超えずに更新していくためには、年間8 km以上更新工事を行っていく必要があります。今の予算規模と人員体制では毎年の更新は2km程度しか出来ず、ピンポイントでの漏水修理を併用することで有収率の向上を図ろうと考えています。なので逆に今の目標値は高いと認識しています。 </p>	<p>【平均2.4点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状をよく表している。 ・市民がこのシートを見るのだろうか。また、内容が理解できるのだろうか。誰に向かったの資料なのかわからない。もっと情報がないと深く内容を見ることができない。 <p style="color: red;">有収率の目標設定値が低いのでは？</p>
事業構成 の妥当性	<p>【4 高い】</p> <p>水道はライフラインとして重要なものであり、水質管理、施設の長寿命化を図りながらの更新・耐震化、収納率の向上を図ることは、妥当である。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p style="color: red;"> おいしい水の定義は難しいと思います。もともと水は無味無臭であるものです。安全で安心だからこそおいしいと感じてもら </p>	<p>【平均2.1点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしい水ならそれに沿った事業を考えてもよい。 ・市民が毎年このシートを見るとはなかなか思えない。このシートが無くなっても困る人は多いとは思えずホームページに記載されているこのシートをどのように役立てたらよいのかよくわからない。老朽化対策や新しい技術などの取り組みが表

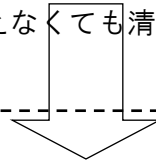
	<p>えるとも思いますので、現在の伏流水を原水とすることを今後とも継続できるよう、井戸の管理等を適正に行うことが重要であると認識しています。そのことをおいしい水に関する取り組みとしたいと思いません。</p>	<p>現できていない。 ・「おいしい水」に関する事業は？</p>
<p>施策の有効性</p>	<p>【3 どちらともいえない】 有収率の目標値が達成できていない状態であるが、試掘調査や老朽化診断により、適切な管路更新を行っていくことで、目標値に近づけるよう努める。</p>	<p>【平均2.4点】 ・適正に評価されている。 ・課長の判断、采配で目標達成できるよう部下を指導するようにしてください。 ・施策の評価は、通り一遍の表現で市民に対して説得力がない。ただの報告書に過ぎない。 ・妥当と評価</p>
<p>進行年度の取組内容</p>	<p>昨年度行った試掘調査、老朽化診断により優先度の高かった、山田原のφ300管路の更新を行う。日生第2配水池から日生病院の間の管路を新設し、架橋に架設している管路に切り替え、漏水している海底送水管を廃止することで、有収率の向上を図る。</p> <hr/> <p>・老朽管路の更新対策については、専門的な言葉を用いない方法で、説明できたらと考えています。 ・29年度の有収率の向上のための具体策は、漏水している海底送水管の廃止です。</p>	<p>【平均2.4点】 ・適正である。 ・優先度を高く、有収率の向上を図っておいしい水を提供して欲しい。 ・目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業において企業誘致事業、企業立地促進事業が挙げられていますが、水需要の拡大が図れるとありますが備前市において工業用水、料金はどのようになっているかわかりづらい。他市と比べて企業誘致が優位にたっているのかもわかりにくい。老朽化対策において新しい技術の調査や取組みが表現できていない。例えば今話題の「オメガライナー」やコンクリートを強化しライフが20年のびる「ラインエックス」などの研究、調査があってもよいのでは？ ・有収率向上のための具体策は？</p>
<p>翌年度の取組目標</p>	<p>H29に引き続き山田原のφ300管路の更新を行う。また鹿久居島配水池を新設し、頭島地区や鹿久居島地区への給水の安定供給を図る。</p>	<p>【平均2.1点】 ・管路の更新の計画が具体的に書かれていればさらによいと思う。 ・評価されればなしでこのシートが終わっているように感じる。施策評価シート3年分を並べると何か新しい施策、変化を見つけることができるのだろうか。 ・有収率の向上は？更新で改善するのか？</p>

【上記以外の内部評価への指摘事項・提言】

- ・担当課で課題がよく理解され改善の方法が述べられている。
- ・ライフラインの重要性はいまさら言うまでもありません。よろしく願いしたい。
- ・まち営業課とよく相談し、是非企業誘致事業、立地促進事業での実績をあげてほしい。
- ・県、市、議員、担当課の連絡が希薄なのではないか？
- ・「おいしい水」は移住・定住する上で大きなウェイトを占めてくるのでこれからも清浄でおいしい水を市民に届けてください。
- ・事業に対して、積極的に改善された点などがわかると見る人も関心を持つのではないか。チェックする内容と改善をアピールする内容などが双方シートに表現されれば市民にわかりやすいと思う。
- ・備前市上下水道課からのお知らせのホームページは、2011年6月30日付が記載されていますが、見直ししてはどうか？市民に対して水道の現状評価と課題などについて
 - ①水道サービスの持続性は確保されているのか？
 - ②安全な水の供給は保障されているのか？
 - ③危機管理への徹底はされているのか？などについてわかりやすい説明が良いと思う。
- ・情報をホームページなどに掲載して災害の時なども安全だと市民にPRしてほしい。
- ・耐震管の整備に関しても、整備の方向性を決めて整備すべき。例えば消火栓に接続している管路を優先的に直すとか・・・
- ・「おいしい水」をもっと備前市の特徴として強調しPRすべき。
- ・漏水の可能性の連絡を水道課からしてくれるような手厚いところに関心した。良いことである。
- ・管の改修・交換のタイミングが悪いのではないか？
- ・とにかくPRがヘタ。業務、事業はしっかりやっているのだからその成果をもっとPRすべき。

【備前市の水道に関する特徴】

- ・工業用水を販売しても単価的なメリットが出しにくい。
- ・近隣市町村の赤穂市における水道料金が非常に安く、備前市は企業誘致に関しては不利。
- ・吉井川の水は、基本的にあまり手を加えなくても清浄である。



- ・ホームページ等を利用して、水道事業の取り組みなどについて広く市民の皆様へPRしていきたい。

④ 05-08-35 公共交通の確保

	内部評価	外部評価（3点満点）
施策評価シート のわかりやすさ		<ul style="list-style-type: none"> ・評価表としてはわかりやすい。 ・よく検討され細部にその跡が見られる。大切な事業なのでよろしく願います。 ・指標がどのように決まったのかなど、もっと情報がないと深く内容をみることができない。良い取組みが出来ているのかどうか判断できない。 ・市民意識調査では内容等見直し、市民満足度を高める領域にあり、市民に対して課題と取組内容が説明不足である。 ・住民のニーズの資料が欲しい。 ・市内の交通網の構築方針は？
成果指標の 妥当性	<p>【2 低い】</p> <p>平成27年10月以降、路線バスは民間事業者の撤退により市営バスとして路線の引継ぎを行うという大きな変化がありました。今後、新たな参考指標を検討する必要があります。</p>	<p>【平均1.6点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標としてはよい。 ・課長も27年度に大きな変化ありとある。早急に直すべきでは？ ・今後期待する項目である。目標達成のための評価指標の設定になっているのかわかりづらい。市民意識調査による施策の重要度・満足度は、まず低位にある認識ができていない。その上で、民間事業者の撤退からの対策、公共交通会議ができていなく市民への報告がない。税金も2倍以上膨れ上がっている対策もとられていない。 ・指標としてバス関連しかないのか？
事業構成の 適当性	<p>【4 高い】</p> <p>路線バス、JR、定期船等を将来にわたって持続可能な交通体系として維持確保していくためには、路線バスの市営化や定期航路の国庫補助航路の認定等において市が関わっていくことが必要です。また、タクシーチケットの交付等の施策により、交通弱者の移動を支援していきます。</p>	<p>【平均1.3点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の優先化を図るべき。 ・タクシーチケットについては、本当に弱者でありこの事業を行うことで少しでも助かっている人がいる一方、普段からバスやJRを利用している人にまで渡っている現実がある。ぜひは正して本当に必要な人に援助してほしい。 ・交通弱者の問題は働き方も変化するので重要な項目だと思う。 ・全体的に前年度と比べて何をやったのか。何を削減したのか予算しか掲載されていないので全くわからない。事務事業において、目標達成に対する評価指標の設定ができていない。例えば、利用している市民の割合、平均乗車人数、市民1人あたりの税金投入額、公共交通（バス、船、JR含め）買物・病院などの目的で利

		<p>用する人の割合、備前市内のみで各公共交通の乗り換えによる料金の格差調査など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光に関する交通網充実についての事業は？
<p>施策の有効性</p>	<p>【3 どちらともいえない】</p> <p>人口減少と少子高齢化が進む中で、公共交通の利用者を増加させることは難しい面もありますが、市営バスの新規路線の運行やバス、JR、定期船間の乗り継ぎに配慮した運行ダイヤの改正等の利便性向上により、市民と観光客の利用者増につなげていきたい。</p>	<p>【平均1.7点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多額な予算がかかっているので詳細調査すべき。 ・特に問題は感じられないが、タクシーチケットがばら撒かれている点で問題あり。ぜひ検討してほしい。 ・地方創生の取組みとして、市民や観光客を巻き込み利用者増に期待する。 ・課題意識が明確でないため、施策展開の分析内容は言葉の羅列でわかりにくい。施策の評価は通り一遍の表現で市民に対して説得力、施策の改善する努力が見られない。備前市公共交通会議においても、事務局主導で市民の意見や専門委員の意見をあまり参考にしていないように感じる。 ・ニーズが不明なため有効性が不明。
<p>進行年度の取組内容</p>	<p>路線バスは市営化以降、路線の見直しやダイヤ改正を行ってきており、平成29年4月からは頭島線の運行を開始すると共に、引き続き利便性の向上に取り組めます。また、定期航路については、平成29年10月からの国庫補助航路に認定に向けて取り組みを進めます。</p>	<p>【平均1.7点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方向性は十分に協議すべき。 ・進行年度の取組み内容には、備前市全体の公共交通の課題を受け、対策等がなされていないため、市民に対して説得力がない。ただの報告書に過ぎない。市民が抱える課題やニーズに対して、どのような手段、手法を用いて結果どのような状態になったら事業の廃止・終了するのか市民にわかりやすい施策評価にしてほしい。 ・ニーズ不明。
<p>翌年度の取組目標</p>	<p>引き続き市営バスの路線の見直しとダイヤ改正を検討し、利用しやすく効率的な運行に取り組めます。また、JRの利便性向上にも取り組み、ICOCA導入やJR便の増便、延長運行について要望を行っていきます。</p>	<p>【平均1.7点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方向性は十分に協議すべき。 ・備前市総合計画に達成すべき目標があり、そこから政策目標－主要施策－施策－事務事業が繋がっていることを市民・職員・関係団体などに理解してもらうことが大切な目標であると思います。そのような中から成果指標を導き出され設定すべきと考えます。 ・平成26年、備前市公共交通会議において議論された交通ネットワーク計画の策定も早期に実行すべきである。

【上記以外の内部評価への指摘事項・提言】

- ・ 施政方針では、「対象要件の緩和も視野に入れ、交通空白地区の利便性を向上させる」とあるが、事務事業評価シートでは「距離要件緩和のため対象世帯が増え、交通空白地域の定義が曖昧になっている」とある。これは相反しているのではないか？（矛盾していないか？）
- ・ タクシーチケットに問題があるように思われる。
- ・ 公共交通における地方創生の今後の取組みはどうなっているのか？
- ・ 高齢者を抱えている家族として、持続可能な交通体系の構築を期待したい。
- ・ 公共交通のあり方で、働き方も変わると思うので大変重要な施策だと思う。
- ・ 公共交通委員会の議事録がわかりづらい。メンバー構成の人選に問題があるように思える。久々井地域の課題検討がなされていない。
- ・ 市が直接運行していますが、久々井においては、市営の料金と乗り換えて備前病院に行く宇野バスの料金を加えると他地域と比べると高い。
- ・ 高齢者におけるタクシーチケット交付事業は、地域によって不平等すぎる。バス停から1 km以上離れた高齢者に対してタクシーの迎車料金が加算された料金の支払いになるため、三国地区、久々井地区の市民がタクシー等で駅・病院利用すると5,000円前後になる。
- ・ 事業構成の根本的見直しが必要だと思います。
- ・ 詳細検討、調査をお願いします。
- ・ 市民意識調査の結果が活かされていない。
- ・ 平成27年度から直営となったが、その辺が伝わってこない。
- ・ 平成26年度までは、公共交通会議で「デマンドバス」について方向性が議論されていたが、平成27年度になって無くなりましたというのを市民は納得しない。
- ・ 事業のPR、アクションが見えない。
- ・ タクシーチケットを交付しても主旨にかなった利用をしていない例が多く聞かれる。

	内部評価	外部評価（3点満点）
施策評価シートのわかりやすさ		<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすいが、もっと数値など定量情報を入れるべき。 ・専門用語はわかりにくい。 ・成果指標がわかりにくい。 ・指標がどのように決まったのかなど、もっと情報がないと深く内容を見ることができない。良い取り組みができていのかどうか判断できない。
成果指標の妥当性	<p>【4 高い】</p> <p>河川改良箇所は、災害防止のため整備を進めて行くうえで直接成果を表す指標としている。</p> <p>修繕要望に対する実施率及びボランティア参加団体数は維持管理上の指標として妥当。</p> <hr/> <p>【4 高い】 → 【3 どちらともいえない】</p>	<p>【平均1.7点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務事業1の苦情件数は妥当な指標か？ ・事務事業2の改修率は妥当な指標か？ ・事務事業3の管理不足の定義は？ ・市民がこのシートを見るのだろうか？また、内容が理解できるのだろうか？誰に向かったの資料なのかわからない。もっと情報がないと深く内容を見ることができない。 ・評価4は高いように思う。
事業構成の妥当性	<p>【4 高い】</p> <p>防災機能の向上及び被災したものの復旧など河川機能の改良と維持には掲載の各事業の他に手段はないと思われる。</p> <hr/> <p>【4 高い】 → 【3 どちらともいえない】</p>	<p>【平均1.7点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が毎年このシートを見るとはなかなか思えない。このシートが無くなっても困る人は多いとは思えずホームページに記載されているこのシートをどのように役立てたらよいのかよくわからない。 ・評価4は高いように思う。
施策の有効性	<p>【3 どちらともいえない】</p> <p>不確定な要因が多く目標達成は厳しいが、着実に整備を進めている。</p> <hr/> <p>【3 どちらともいえない】 → 【4 高い】</p>	<p>【平均1.5点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標や評価は要検討。 ・施策の評価は、通り一遍の表現で市民に対して説得力がない。ただの報告書にすぎない。 ・評価3は低いように思う。
進行年度の取組内容	<p>継続中の改修工事を優先的に進めていく。県管理河川についても改修要望と調整を十分に行い早期完成を目指す。また溢水、破堤など危険箇所の局所改修を優先的に実施するとともに、土砂堆積の著しい河川について浚渫を実施できるよう浚渫土の処分場所確保の調整を進めていく。</p>	<p>【平均1.8点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の把握はされている。 ・市民の意識が低いのはなぜかの分析がなく、どのようにしたら意識調査で満足していただけるかの具体的対策と取組姿勢が感じられない。 ・今後に期待したい。
翌年度の取組目標	<p>引き続き継続中の改修工事を進めていくとともに、県管理河川についても早期完成を目指し強力に要望していく。ボランティアや地元関係者と連携し、現状の把握や適切な維持修繕に努める。また浚渫土の処分場所の建設に着手できるよう準備を進めていく。</p>	<p>【平均1.8点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十分理解されている。 ・評価されっぱなしでこのシートが終わっているように感じる。施策シート3年分を並べると、何か新しい施策、変化を見つかることができるのだろうか？ ・今後に期待します。

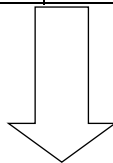
【上記以外の内部評価への指摘事項・提言】

- ・危険箇所の優先度（を踏まえて、改修に臨んだ結果を記載してほしい）
 - ・危険箇所が増えていくことへの対応（について記載してほしい）
 - ・全体的に記述内容がわかりにくい。
 - ・県管理部分と市管理部分を同一の評価シートで評価するのは問題があるのではないか。
- ※カッコ内の記述は、実際に記述はなかったがわかりやすくするために追記したものです。

- ・ボランティア活動に関して、要望や言ってきた団体に対してだけ対応して言ってこなかったら何もしないというのはナンセンス。こういう事業があるという告知を積極的にしていくべき。ホームページに掲載していても見てもらわなければ意味がない。そこも工夫するべき。
- ・市民が（施策・事務事業）評価シートを見て具体的な事業内容が分かるような情報をしっかり掲載していくべき。
- ・評価シートを記入するのは、前年度の実績を記載するようになるが人事異動があった時、新任の課長、係長の場合非常に記入しにくい。シートの記載精度をあげるのであればここも改善すべきではないか？

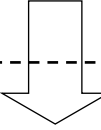
施策成果指標欄の変更

参考指標 ①	市民からの要望への対応	目標	%	70.0	70.0	75.0	改良・修繕箇所数/要望箇所数	H28	75
		実績	%	71.0	34.0	82.0		H29	75
		達成率	%	101.4	48.6	109.3		H34	85
		ベンチマーク						—	—



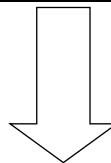
参考指標 ①	市民からの要望への対応	目標	箇所	50.0	50.0	50.0	年度ごとの対応箇所数 要望件数H26⇒62件、H27⇒61件、H28⇒64件 ※要望は県管理河川等を含む	H28	50
		実績	箇所	44.0	21.0	38.0		H29	50
		達成率	%	88.0	42.0	76.0		H34	50
		ベンチマーク						—	—

	内部評価	外部評価（3点満点）
施策評価シート のわかりやすさ		<ul style="list-style-type: none"> ・専門用語はかみくだいて記載すると市民にもわかりやすい。 ・指標がどのように決まったのかなど、もっと情報がないと深く内容を見ることができない。良い取り組みができていのかどうか判断できない。 ・コンパクトシティの実現に向けた市民への情報提供、具体的取組みを充実してはどうか？ ・この施策に興味があり、理解しやすかった。 ・わかりやすい文章になっている。
成果指標の 妥当性	<p>【3 どちらともいえない】</p> <p>市民になじみの薄い施策であり、また短期間での成果が目に見えにくいため指標の設定自体が困難であり、他に適切な指標がないことから市民意識調査の結果を掲げている。</p> <p>『短期間での成果が目に見えにくいため指標の設定自体が困難であり、他に適切な指標がないことから市民意識調査の結果を掲げている。』に改める</p>	<p>【平均1.5点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家率を入れてはどうか？ ・事務事業の目的に合致していない。 ・目標が多い（会議を開催すれば良いわけではない） ・目標達成のための評価指標の設定になっているのかわかりづらい。市民意識調査による施策の重要度・満足度は、まず低位にある意識ができていない。 ・市民になじみが薄い施策とは思わない。
事業構成の 妥当性	<p>【3 どちらともいえない】</p> <p>法定事務であることから現状では妥当であるが、情勢の変化に応じた制度の見直しや新しいルールづくりの検討が常に必要</p>	<p>【平均1.7点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場、公園以外は判断できず ・全体的に前年度と比べて何をやったのか、何を削ったのか、予算しか計上されていないので全くわからない。 ・定住化促進のためによりしく願います。
施策の有 効性	<p>【3 どちらともいえない】</p> <p>無秩序な開発等の行為を防止し、まちの景観や自然を保全するという点では一定の成果が上がっているが、受動的な性格が強いことから短期間での向上は難易度が高い。</p>	<p>【平均1.8点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場、公園以外は判断できず ・施策の評価は、通り一遍の表現で市民に対して説得力、施策の改善する努力が見られない。 ・備前市らしい景観や自然のまちづくりを期待する。
進行年度 の取組 内容	<p>土地区画整理事業について、現状に応じた見直し案として事業計画を廃止する方向で県との協議等調整を進めているが、廃止後の代替計画が必要であることから案の検討をおこなう。また、課題となっている空き家対策については、創設した除却補助制度により対策を進めていく。</p>	<p>【平均2.0点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民になじみのない施策のまま良いのか？ ・市民が抱える課題やニーズに対して、どのような手段、手法を用いて結果をどのような状態になったら事業の廃止・終了するのか市民にわかりやすい施策評価

		にしてほしい。 ・見直し案と事業計画廃止案が気になる。 ※土地区画整理事業に関して
翌年度の取組目標	区画整理代替案を固め方針決定できるよう内部協議や関係との協議調整を進める。また、空き家についての対策を進めていく。	【平均1.8点】 ・法令に基づく許認可などの業務が中心で、事務事業評価シート、施策評価シートの目標内容は、言葉を並べているだけであり、使われている表現は感情が入っていない。一般に聞く表現を羅列しているだけで、備前市が今後どのようにすればよくなっていくのかわかりにくい。 ・空き家対策が気になる。
【上記以外の内部評価への指摘事項・提言】		
<ul style="list-style-type: none"> ・定住化促進のための土地利用に関する事務事業は？ ・成果指標『8.0』の根拠 → 数値で表すには難しいのでは？ 削除してもよいのでは？ ・備前市に定住しようとする人間として、定住化推進事業が市民になじみの薄い施策とは思わない。 ・今後、備前市の歴史、風土を大切にし、景観を意識したまちづくりに期待する。 ・どこの土地も具体的に「いつまでにどのようにする」「今どうなっている」のかを市民に伝えていかないと将来性が見えない。観光客からみてもまち全体が暗い印象になってしまいそう。 		
		
<p style="color: red;">政策展開：定住化促進のための土地利用を削除</p>		

施策成果指標欄の変更

成果指標	秩序ある土地利用と良好な市街地の形成ができていると思う市民の割合。（市民意識調査）	目標	%	6.5	7.0	7.5	市民意識調査の満足度チェック （「満足」+「まあ満足」）／全回答数	H28	8.0
		実績	%	-	-	-		H29	8.5
		達成率	%	#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!		H34	10.0
		ベンチマーク						-	-



成果指標	秩序ある土地利用と良好な市街地の形成ができていると思う市民の割合。（市民意識調査）	目標	%	7.0	7.0	7.0	市民意識調査の満足度チェック （「満足」+「まあ満足」）／全回答数	H28	7.0
		実績	%	-	6.3	-		H29	7.0
		達成率	%	#VALUE!	90.0	#VALUE!		H34	10.0
		ベンチマーク						-	-

(3) 行政評価市民委員会について（委員による全体総評）

- ・水道の評価は非常に高かった。実際に担当者に言葉で聞いたらすごいことをやっていることが分かった。シートへの表現をもっとうまくすればなおよかったと思う。（船橋）
- ・市庁舎内部の改革を推進していくべき。人任せ（他部所）ではなく、『自分のまち』がどうしたら良くなるか積極的に係られる組織形態にすべき。来年度から改革が始まるようなので期待している。（片山、船橋）
- ・行政評価シートを作成し、一生懸命評価しているが、今後どのようになっていくか動向を知りたい。この委員会の成果がどうだったのか結果を知りたい。（船橋、朝倉、佐藤、大森）
→この市民委員会で指摘いただいたことにより、すぐに施策を廃止とか、方針変更とかには結びつかないが、担当課長は『ごもつとも』という部分に関しては真摯に受け止め参考になっているので、この委員会は一定の成果があったと言ってよいと思う。
- ・来年度の当初に発表するため、今年度の市民委員会の感想等振り返りについて、担当課長に聴取しておいてほしい。（世羅）
→今年度発表いただいた担当課長に聞いておく。
- ・行政評価シートは議員に見てもらいたい。（世羅）
→10月頃に各議員に施策評価シートを渡している。その反響はあまりないのが現実。
- ・今までのボリュームがあり過ぎたが今年度のテーマ数、時間配分等については非常に楽で、かつ見やすかった。このペースが良いと思う。（船橋）
→市民委員会では年間6事業しかできない状況。全体のシートのボリュームがあり過ぎて読んでもらえていないと推察している。今後は読みやすいように要約、簡素化できるよう検討したい。
- ・全体的に見て、評価シートの作成の仕方については、レベルがアップしていると思った。（船橋）
- ・今年度の市民委員会に関しての準備には時間を掛けているのが見える。会としても改善が見られた。（船橋）
→今年度は、委員会開催前の事前準備には時間を掛けてきた。また、委員会としても前回の意見を参考にプロジェクター等を準備するように改善した。

【問題点】

- ・行政評価シートを市民が見てわかりにくい。
- ・シートから当該年度の実績を読み取りにくい。
- ・事務事業評価シートは、担当者が作成し、係長の目を通して提出の流れが本来だが、実際は係長が一手に作成を担っているという現実がある。人事異動で4月に着任した状況を想定すると、業務内容が分からないまま無理矢理作成しているようである。
- ・事務事業評価、行財政改革プラン、目標管理など事業管理制度が乱立している。最終的には総合計画に収束すべきで本当は1つのことに向かって事業をしているにもかかわらず、制度によって考え方が一貫していないという問題がある。

- ・ 事務事業評価シートの結果指標、成果指標の採り方が疑問に思うものが多い。経年比較をしてきているため、変えることに躊躇するところだが見直しが必要。
- ・ 成果指標を設定できないものについては設定しなくてもよい。
- ・ 事業の PR、アクションが見えない。基本的に PR がヘタ！市民に知ってもらいたいことは、積極的に PR すべき。
- ・ 市民意識調査の結果が有効に活かされていない。

(4) 行政評価市民委員会について（担当課長の意見・感想）

テーマ・・・『コミュニティの育成と地域活動の推進』

担当・・・市民協働課（馬場課長）

意見・・・当課の事業について、外部の目（職員でなく市民）から見た意見を具体的に把握することができ、今後の事業の進め方について参考になった。

テーマ・・・『移住・定住の推進』

担当・・・地方創生推進課（岩崎課長）

意見・・・市民目線の意見、生の声が聞けたことが非常によかった。市民委員があらかじめ事業に関して予習してきた上でのQ & Aの場は中々ない。ある程度ハイレベルな意見聴取ができたのではないかとと思われる。

テーマ・・・『安全でおいしい水の安定供給』

担当・・・上下水道課（梶藤課長）

意見・・・我々が普通に使っている専門用語が、一般の市民には伝わりにくいということがよくわかった。この市民委員会だけでなく、市民への説明時には、内容を噛み砕いてわかりやすく、表現することが必要であることを認識できた。

市民委員の方々は、委員を長期に渡って務められた方、委員になって間もない方など色々であろうが、委員は、できるだけ色々な方に担っていただいた方が良いのではないかと考える。よって任期について具体的な決まりを設けてはどうかと考える。

テーマ・・・『公共交通の確保』

担当・・・公共交通課（杉田課長）

意見・・・市民目線での意見が聞けて参考になった。タクシーチケットが利用しにくいという利用者の声や、バス路線に関することでの更なる利便性向上に向けた策の必要性を実感した。

テーマ・・・『河川改修・砂防施設整備』 『秩序ある土地利用と良好な市街地の形成』

担当・・・まち整備課（淵本課長）

意見・・・事業説明時、我々が普通に使っている専門用語が、一般の市民には伝わりにくいということを実感した。この市民委員会だけでなく、市民への説明時には、内容を噛み砕いてわかりやすく、表現することが必要であることを認識した。